

草のみどり

Kusa no Midori



FRONT LINE 総合政策学部

学部創立30周年を迎えた総合政策学部の学び

2023年9月号(通巻第339号)
2023年9月1日発行
発行 中央大学父母連絡会
編集 『草のみどり』編集委員会
制作 株式会社トリッド

【本誌に関するお問い合わせ】
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1
中央大学父母連絡会事務局
mail: fuboren-grp@g.chuo-u.ac.jp
TEL: 042-674-2161
FAX: 042-674-2205



FRONT LINE

総合政策学部

2 学部創立30周年を迎えた
総合政策学部の学び

学情情報

6 法学部 夢をカタチに!——わたしの「やる気」

法学部法律学科3年/廣嶋 怜
法学部だより
法学部事務室/漆原 徹

8 経済学部 経済学部から世界をひらく

経済学部国際経済学科3年/齊藤 龍一
経済学部だより
経済学部事務室/室永 美乃里

10 商学部 私の商学部ライフ2023

商学部会計学科4年/西山 蒼生
商学部だより
商学部事務室/鈴木 勝利

12 理工学部 理工の最先端研究に迫る!

理工学研究科博士課程前期課程都市人間環境学専攻2年/中澤 祐太
理工学部だより
保健センター専任医師/田中 誠一

14 文学部 文学部生のリアルな!学生生活

文学部人文社会科学科ドイツ語文学文化専攻4年/松田 優
文学部だより
教育学研究室室員/西野 奈奈

16 総合政策学部 プロジェクト奨学生の眼

総合政策学部国際政策文化学科4年/椿 恵
総合政策学部教授/伊賀上 菜穂

18 国際経営学部 世界を動かす人になろう

国際経営学部国際経営学科3年/手塚 謙介
国際経営学部准教授/大坪 弘教

20 国際情報学部 テクノロジーと法の未来へ

国際情報研究科修士課程1年/西 あやの
国際情報学部事務室/児玉 文子

22 わたしたちのゼミへようこそ

経済学部経済学科3年/八木 澤ささ季
経済学部准教授/中村 千尋

24 まるちあんどぐる

理工学部教授/澤野 嘉宏
GO GLOBAL 中央から世界へ。
国際センターNEWS

26 GO GLOBAL REPORT

経済学部国際経済学科2年/花岡 真理佳
理工学部都市環境学科2年/窪野 弘幸

28 CAREER INFORMATION 2023

OB・OGからの Messages
株式会社三菱UFJ銀行/御木 亮佑

30 ホランティア通信

商学部会計学科4年/西直樹
学生部掲示板

32 資格試験対策講座開講のお知らせ

中央大学の事業の実績および決算について
白門祭奮闘記

34 白門祭奮闘記

中スポPLUS 硬式野球部
経済学部経済学科3年/為谷 楓太

36 学友会 文化系サークル紹介

商学部経営学科3年/森下 裕介
一問一答 中大生 X INTERVIEW

38 CAMPUS NEWS

40 イベント体験記

42 第57回白門祭・大学祭開催案内

TEDUKA
KENSUKE



FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

世界を人に動かす Vol. 21 なるう

企業経営とグローバル経済の先端知識、優れたコミュニケーション能力を養うべく、国際経営学部生は前進を続けています。

国際経営学部での

「挑戦」が広げた自分の可能性

国際経営学部国際経営学科3年 / 東京都立調布南高等学校出身

てっか けんすけ
手塚 謙介

国際経営学部との出会い

初めまして。今回はせっかく「草のみどり」に寄稿させていただいたので、僕が持つマインドセットや軸を、国際経営学部での経験に絡めて共有したいと思います。まず、僕のバックグラウンドについて知ってもらいたいので、少しだけお話しさせていただきます！

高校時代の僕はクラスで一番成績が悪く、落ちこぼれでした。英語が大嫌いで先生と口論になり「英語なんか将来必要ない！」と受験期間真っ只中のクラスで一人騒いでいるほどのバカでした。かなりの問題児で僕専用の職員会議も開かれていたらしいです。結局大学受験はせず、高校卒業後はお笑い芸人をめざし、1年間放浪していました。事務所のオーディションに行ったり、ネタを書いたりしていました。高校卒業後1年が経ち、急に大学で勉強したいという欲が出てきます。そこで1年の自宅浪人を経て合格したの

がこの中央大学国際経営学部です。おかげで周りよりも2年遅れで大学に入りましたが、この選択に後悔はないです。

国際経営学部に入ってから大事にしていること

大学に入学してから常に意識していることがあります。一つは「背伸びすること」、二つ目は「周りの人を大事にすること」です。

まず前者について。中央大学に入るなんて高校生の時の自分からしたら、かなりのステップアップです。入学した当初は周りのレベルの高さに驚きました。しかしただ圧倒されるのではなく、背伸びをして食らいついていったので今の自分があります。常に自分のレベルよりも高い環境に身を置くことで人は成長できます。僕はこれを実践して、英語を話せるようになりました。

次に後者について。「周りの人を大事にすること」です。これはこの後にお伝

えする学生団体の活動において、最も意識していたことと言っても過言ではありません。仕事をするにしても、友達と過ごす日常においても、周りのことを第一に考え大事にしていると、いつしか自分の周りの環境はとて過ごしやすいものに変わると思います。

GIAACEとの出会いと代表としての1年

僕は1年生の後期にGIAACEに入り、2年生になるタイミングで代表に抜擢されました。GIAACEは、学部生向けに留学支援や異文化交流の場を提供し、英語学習や留学に興味を持ってもらうために活動している国際経営学部公認の学生団体です。代表になったものの今までリーダーシップをとった経験がないため、最初は右も左もわからない状態でした。

自分がこの団体に残した大きなものは、カルチャーです。人を大事にするという価値観から、メンバーに対し常に真摯に



1 G-ACEの頼れるメンバーたち 2 G-ACEが海外の高校生にキャンパスツアーをした時の様子
3 G-ACEとしてGLOMAC-AWARDを受賞した時の様子

向き合ってきました。その甲斐もあってとてもアットホームな雰囲気の良い団体になりました。その雰囲気メンバーも誇りに感じていると思います。そして頼もしいメンバーのおかげで新メンバー募集に成功し、現在は僕が代表に就任した当初の3倍程のメンバーを抱えています。団体代表として過ごした1年で得た一番大きなものは「リスクを冒す勇氣」です。代表になることも勇氣のある決断でした。そして活動の中で、代表として時には勇氣のある決断もしました。何かを決断をする時にさまざまなリスクを想像して、一歩を踏み出せない人も多いのではないのでしょうか？ そのような場面において勇氣を持って前に進むことができると、次の決断は前よりもだいぶ楽なものになると思います。失敗したときに失うものはたかが知れています。逆に得るもののほうが大きいです。この繰り返しで僕は強くなりました。

出来上がっていく自分の軸

国際経営学部での学修やG-ACE代表の経験などのさまざまな活動を通して自分の軸が輪郭を帯び始めています。僕は、この学部に入ったことが人生を大きく変えてくれたと胸を張って言えます。この学部の良さは、学生の挑戦に対して

国際経営学部だより

工夫と努力で、ハードな大学生活を乗り切ろう

国際経営学部の特色の一つは、設置科目の7割を外国語（主に英語）で実施していることです。たとえば、私の担当科目である経営数学入門やミクロ経済学などでは、実際にアメリカの大学で採用されている教科書を使って、英語で授業を行っています。高校まですべて日本語で授業を受けてきた学生にとっては、英語で授業内容を理解する必要があるこの学習環境はとてもハードだと思います。

実は私も、同じような環境に身を置いたことがあります。私は21歳の時にアメリカの大学に編入するために渡米しました。それまですべての教育を日本語で受けていた私は、英語を話すのも聞き取るのもまったくダメでした。そのような私でしたので、現地の大学に編入した当初はネイティブスピーカーが話す英語の速さに圧倒され、授業についていくのに大変苦労しました。

そうした厳しい学修環境を生き抜く方法として、いくつか実践したことがあります。一つは予習です。事前に自力で分からない箇所を目印をつけておき、授

業中はその箇所の説明だけは聞き逃さないように集中しました。事前に授業内容を知っておくことで、不足するリスニング力を補うことができました。

もう一つは、間違いを恐れず、英語でのコミュニケーションを純粋に楽しむことでした。英語の練習と授業での疑問の解消も兼ねて、教員のオフィスアワー（学生からの質問や相談に応じるための時間帯）を積極的に利用しました。「学び」とは、その行為自体の中に喜びや感動、驚きを発見することだと思います。「自分の言いたいことが伝わった!」「相手の言っていることが分かった!」という喜び、感動を積み重ねることがその後の英語学修への大きな後押しになりました。

厳しい学修環境の下で頑張る国際経営学部生が「この学部に来て本当によかった!」と思えるように、これからも微力ながら彼らの大学生活をサポートしてまいります。

国際経営学部准教授 おおつぼ ひろのり 大坪 弘教



寛大なところですよ。学生が実現させたいものに対して事務室はサポートをしてくれます。この学部でのおよそ2年半の挑戦を通して、僕は一回りも二回りも人として成長できたと感じています。今でも挑戦に対して多少の不安はありますが、以前ほどではありません。挑戦は自分を

強くし、自分ならなんでもできるという「自信」を与えてくれました。この2年半で得た仲間や協力してくださった事務室の方々には感謝しかありません。僕はこれから上級学年、先輩として、下の世代の背中を押せる人になりたいです!